

# 香川大学における2009年度TOEICテストと アンケートの検討

長 井 克 己 (大学教育開発センター准教授)

## 1. はじめに

全1年生の英語のシラバスを統一し、年2回のTOEIC受験を導入したカリキュラムが2005年に開始されてから既に5年が経過した。農学部での習熟度別クラス編成や、学部別の教科書選定などの修正を経て、現行のカリキュラムは一応定着しているように思われる。しかし同時に、その限界や改善すべき点も次第に明らかになってきた。そこで本稿では、最新のTOEICデータとアンケート調査の結果を紹介し、カリキュラム改善の資料としたい。

## 2. 2009年度TOEICテスト

表1に本年度6月と12月実施のTOEIC-IPテストにおける学部別成績分布を示す。表中のtakersが受験者数、meanが平均点、左側の目盛がリスニングとリーディングの、右側の目盛が合計の、それぞれ学生数(分布)を示している。医学部医学科は宮脇書店主催のTOEICを別日程で受験するため、表1では紹介していないが、4月に別問題で実施されたIPテストの平均は、最近3年間では517、556、503であった。また、過去のTOEICテストの成績については長井(2007、2008、2009)を参照されたい。

表1 2009年度TOEICテスト成績分布(1年生対象)

2009年6月				2009年12月			
	listening	reading	total		listening	reading	total
農 takers	158	158	158	農 takers	160	160	160
mean	210	165	375	mean	224	163	387
sd	43	50	84	sd	48	50	90
300-	6	4	3	300-	14	3	4
280-295	3	0	2	280-295	3	1	3
260-275	10	2	6	260-275	18	3	9
240-255	20	5	10	240-255	26	6	21
220-235	30	10	36	220-235	32	6	28
200-215	24	11	46	200-215	27	19	42
180-195	29	27	27	180-195	13	16	29
160-175	24	27	20	160-175	15	23	15
140-155	3	24	6	140-155	7	34	7
120-135	7	19	2	120-135	2	25	2
-115	2	29	0	-115	3	24	0
(listening/reading)			(total)	(listening/reading)			(total)
経済 takers	300	300	300	経済 takers	280	280	280
mean	223	190	413	mean	231	180	411
sd	43	52	83	sd	54	54	99
300-	14	10	8	300-	31	5	7
280-295	16	0	6	280-295	10	4	13
260-275	25	12	20	260-275	44	7	31
240-255	49	26	67	240-255	37	22	44
220-235	71	41	73	220-235	51	29	63
200-215	47	41	66	200-215	38	50	49
180-195	34	51	30	180-195	25	26	37
160-175	18	40	27	160-175	19	39	21
140-155	20	28	3	140-155	13	29	9
120-135	5	24	0	120-135	5	31	5
-115	1	27	0	-115	7	38	1
(listening/reading)			(total)	(listening/reading)			(total)
法 takers	159	159	159	法 takers	152	152	152
mean	237	199	435	mean	245	194	439
sd	41	45	76	sd	49	53	91
300-	14	3	5	300-	25	7	6
280-295	15	1	6	280-295	8	2	4
260-275	15	13	17	260-275	22	5	26
240-255	27	11	37	240-255	31	12	38
220-235	33	22	46	220-235	30	22	33
200-215	30	36	30	200-215	17	30	22
180-195	17	21	14	180-195	5	11	14
160-175	6	27	4	160-175	6	25	3
140-155	2	11	0	140-155	6	18	6
120-135	0	8	0	120-135	2	9	0
-115	0	6	0	-115	0	11	0
(listening/reading)			(total)	(listening/reading)			(total)

表2 2009年度TOEICテスト成績分布(1年生対象)(続き)

教育 takers	181	181	181	教育 takers	179	179	179
mean	224	191	415	mean	235	189	424
sd	48	53	91	sd	46	59	94
300-	12	5	3	300-	18	9	7
280-295	12	3	12	280-295	8	1	8
260-275	11	9	17	260-275	24	11	20
240-255	28	16	27	240-255	32	14	34
220-235	39	17	46	220-235	36	23	41
200-215	28	29	37	200-215	26	21	31
180-195	25	32	20	180-195	16	18	23
160-175	14	14	15	160-175	12	22	10
140-155	4	25	2	140-155	5	20	5
120-135	5	19	2	120-135	2	22	0
-115	3	12	0	-115	0	18	0
(listening/reading)			(total)	(listening/reading)			(total)
看護 takers	60	60	60	看護 takers	59	59	59
mean	221	178	399	mean	221	165	386
sd	37	43	68	sd	43	46	80
300-	1	0	0	300-	4	0	1
280-295	3	1	0	280-295	0	2	2
260-275	3	2	5	260-275	10	1	2
240-255	12	1	9	240-255	5	1	7
220-235	14	9	17	220-235	17	4	12
200-215	14	6	17	200-215	4	5	16
180-195	5	12	5	180-195	7	6	11
160-175	4	6	7	160-175	9	9	8
140-155	4	13	0	140-155	2	12	0
120-135	0	4	0	120-135	1	11	0
-115	0	6	0	-115	0	8	0
(listening/reading)			(total)	(listening/reading)			(total)
工 takers	254	254	254	工 takers	255	255	255
mean	200	156	356	mean	215	152	367
sd	43	41	75	sd	47	42	80
300-	5	0	0	300-	18	0	0
280-295	3	2	3	280-295	4	0	6
260-275	12	0	5	260-275	22	2	12
240-255	23	5	18	240-255	26	3	17
220-235	41	12	49	220-235	50	13	46
200-215	50	23	57	200-215	41	26	66
180-195	45	28	66	180-195	42	22	62
160-175	36	45	42	160-175	29	49	29
140-155	20	43	10	140-155	13	30	17
120-135	13	56	4	120-135	6	55	0
-115	6	40	0	-115	4	55	0
(listening/reading)			(total)	(listening/reading)			(total)

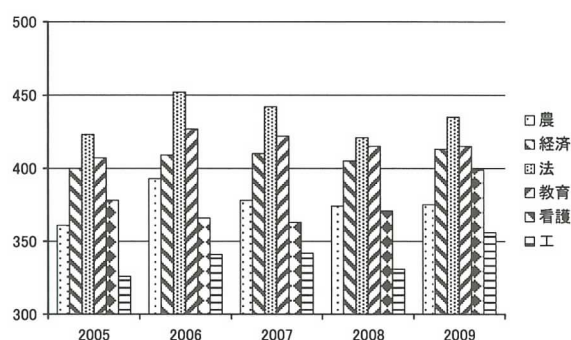


図1 香川大学1年生の6月平均点推移

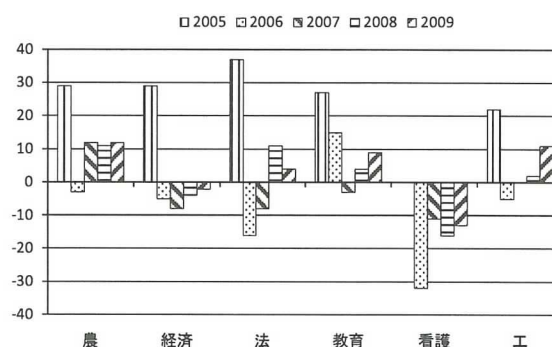


図2 TOEIC平均点の学部別伸び(6月と12月の差)

図1は、前期に行ったTOEICの平均点を学部ごとに示したものである。2005年度の医学部看護学科は旧カリキュラムのためTOEICを受験していない。前述のように平均点が常に500を越す医学部医学科にまず法学部が続き、以下は教育・経済学部、農学部・医学部看護学科、そして工学部の順となる。この順序は毎年ほぼ一定であり、全学部共通であった教科書を3レベルに分割して2009年度にシラバスを修正する根拠となった。

図2は、前期に比べて後期の平均点がどの程度伸びたかを、学部ごとの平均の差により示したものである。誤差範囲を超えて成績上昇が見られた学生数をカウントする長井(2007)の図18のような手法の方が、この目的では望ましいことは言うまでもないのであるが、どうしてもスコアの差に学生は固執してしまう傾向がある。それを避けるための参考資料として作成したのが図3であり、いくら精度が高いと言われるTOEICでも平均点が590を超える回と570に満たない回があることが分かる。毎回10万人近い受験者を集めるTOEIC公開テストで大きな平均点の変動があることを、受験者の英語力のばらつきだけで説明するのは苦しいことである。すなわち、問題のバージョンごとにある程度の難易差があり、得点調整では修正しきれないと考える方が妥当であるように思える。本学のIPテストの場合は、2006年度12月の試験は6月の試験よりも難しかったのであろう。

むしろ図2から読み取るべきことは、6月から12月の半年間で有意な成績上昇を達成することの難しさと、それぞれ1回だけのTOEICで成績を比較することの危険性であるように思われる。そこで例えば1年生の6月のTOEICを廃止し、2年生の12月に受験を義務化する、あるいは通年TOEIC成績の「アップデート」を受け付ける(自己最高点を年度末に申請する)ような仕組みを作ることが、より学生本位の有用なカリキュラムとなるのではないかとと思われる。実際にそのような仕組みを作っているある国立大学では、TOEICスコアを科目の成績と同様に事務部で管理して対応している。



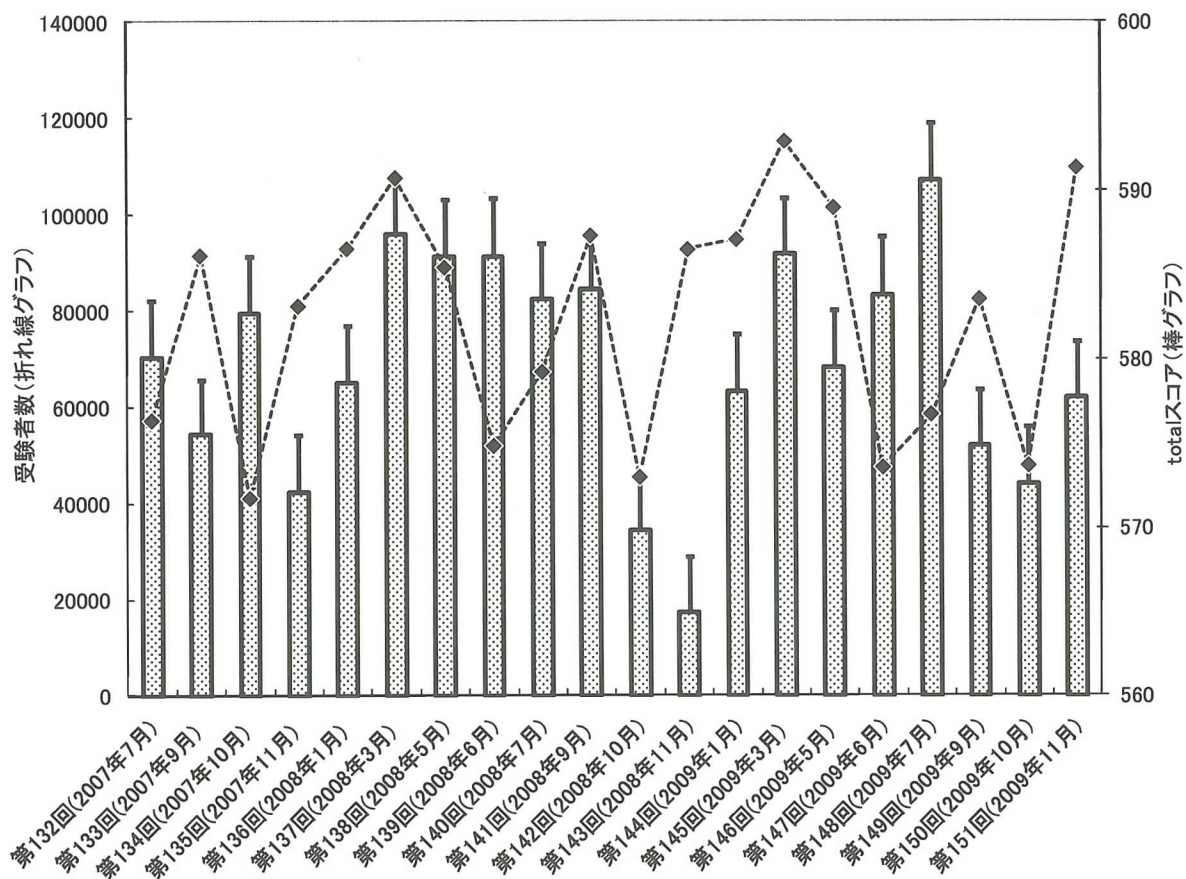


図3 TOEIC公開テストの受験者数と平均点 (totalスコア)

### 3. 英語のカリキュラムに関する学生アンケート

2006年度から3年間、2年生を対象として本学の英語教育についてのアンケート調査を行い、その結果は長井(2006、2007)に公表されている。本年度は新たに1年生を対象としてTOEICテストのマークシートを利用したアンケートを行った(図4)。1年生の統一教材としてTOEICを教科書として学び、2年生から分野別に分かれて授業を受けること、また、習熟度別にクラスを編成することについては、ほとんどの学生に好意的に受け止められていることが分かる。唯一否定的な意見が多かったのは週1回の授業で2単位とするための自習課題の「書き写し課題」であり、2年生のアンケートでも同様に非常に評判が悪かったものである。中学校の教科書をレポート用紙に書き写し、4回以上提出するのが義務なのであるが、同程度の労力でもっと別の有用な作業が出来るのではないかと教員は思い、学生もそう感じているのではないだろうか。何もしないよりは良いことは言うまでもないが、検討を要する課題であると思われる。自習課題こそe-learningの適した分野であると思われるが、本学のソフトウェア(アルク・ネットアカデミー)は旧形式TOEICに準拠した古いもので、利用実績もあまり振るわない。先進的な大学ではオンライン教材を開発するために、「英語の得意なプログラマ」を新規に雇用したりしている。

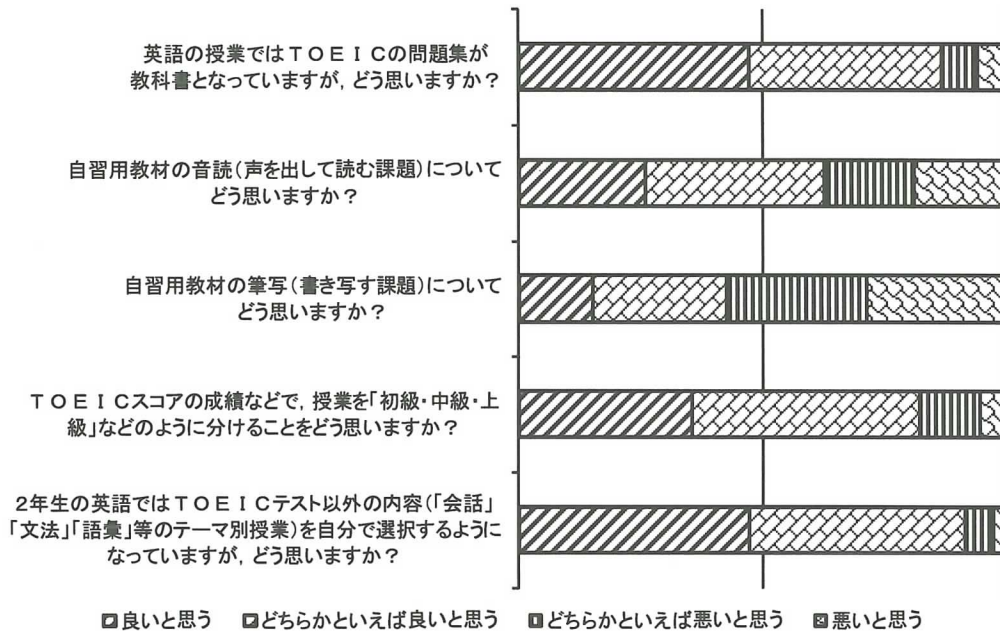


図4 1年生を対象とした本学の英語教育に関するアンケート

図4のアンケートと同時に、卒業要件として英語を何単位履修する予定かを試験的に尋ねてみたのが図5である。Eは経済学部、JLは法学部と教育学部、「学校教員」は教育学部学校教員養成課程の学生であり、JLには「学校教員」部分が含まれている。図5に見られる「学校教育」の英語0単位を希望する学生数21は例年と比較して多く、やや信頼できないデータである。2年で英語を履修しない(初修外国語を6単位履修して卒業する)学生の数が大きく変動すると、曜日ごとのクラス定員にアンバランスが生じ、場合によっては開講数を調節する必要が生じる。そこで大学教育開発センターとしてはなるべく正確に知りたいデータなのであるが、入学時の調査が最近廃止されたこともあり、そのできるだけ正確な把握が新たな課題となっている。

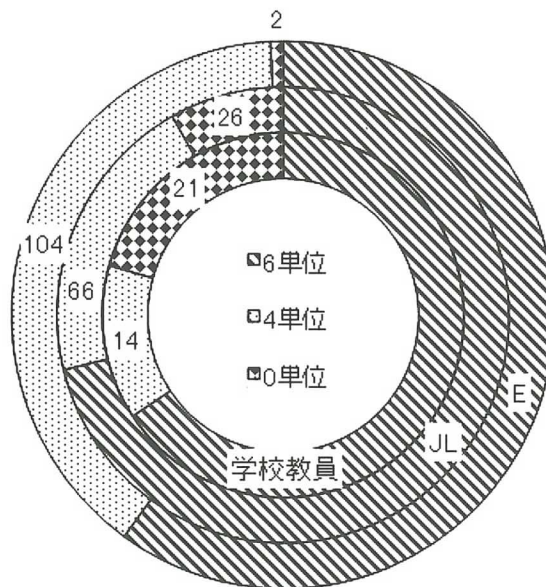


図5 卒業要件として予定している英語の単位数

## 参考文献

- 長井克己（2007）「香川大学における TOEIC テストの分析（2005-2006年度）」 香川大学大学教育開発センター編『香川大学教育研究』第4号、40-52頁。
- 長井克己（2008）「香川大学における TOEIC テスト（2007-2008年度）とアンケートの検討」 香川大学大学教育開発センター編『香川大学教育研究』第5号、21-28頁。
- 長井克己（2009）「香川大学における2008年度 TOEIC テストと英語到達度別クラス編成の試行」 香川大学大学教育開発センター編『香川大学教育研究』第6号、13-17頁。